

第五卷

私は、今日が人生最後の日であると心得て生きる。

それでは、この最後の日にあたって、貴重な今日一日を、私はどのように過ごせばよいのであろうか？

まず第一に、私は、自分の人生という容器にしっかりと封ふうをして、中身が一滴たりとも、外の砂の上にこぼれ落ちないようにする。この意味は、「過去の不運を嘆なげかない」ということである。

私には、昨日の不運、昨日の敗北、昨日の心痛しんつうなどを嘆なげいている暇ひまはない。嘆なげいたとて、すでに過ぎ去ってしまった日の、悪いことを良いことに変えられるはずはあるまい。砂時計の、落ちてしまった砂を、ふたたび上へ浮かすことができるだろうか。太陽は、沈んだところから昇り、あるいは、昇ったところへ沈むであろうか。私は昨日の誤りあやまを正しいものに変えることができるだろうか。私は、昨日受けた傷を呼び返し、無傷の状態へ戻せるだろうか。

私は、昨日の若さをもう一度取り返せるだろうか。また、他人に対してしゃべってしまった暴言、与えてしまった打撃や苦痛を撤回てっかいすることができだろうか。答えはすべて、「ノー」である。

「過去は過去として、永遠に葬ほうむらしめよ」である。私は、それらのことはもう考えない。

私は、今日が人生最後の日であると心得て生きる。

では、どのように生きればよいのか。

私は、昨日のことを忘れることにしたが、同時に、明日のことも忘れることにしよう。不確実な未来のために、確実な現在を放棄ほうきするのは愚かなことである。砂時計の中で、明日の砂が、今日の砂より先きに流れることがあるか。朝、太陽が二度昇るといふことがあるか。今日という道の上に立ちながら、明日の行為が為なせるであろうか。明日の金を、今日の財布に入れることができようか。明日の子供が、今日生まれることがあるか。明日の死が、後方へ影を投げかけ、今日の喜びを暗くしてしまうとでもいうのか。出会わないかもしれぬ事件を気に病やむ必要があるだろうか。起こらないかもしれぬ問題に、今から悩む必要がある

うか。答えはすべて、「ノー」である。

明日も、昨日とともに、葬ほうむられているべきものである。私は、もはや明日については考えない。

私は、今日が人生最後の日であると心得て生きる。

今日のこの日が、私にとってすべてであり、そして、今、刻きざまれているこの時が、私にとっての「永遠」なのである。私は、死刑の執行しつこうを延期された囚人しゅうじんのように、歡喜の声をあげて、今日の日の出を迎むかえる。私は、両手をあげて、この新しい日という贈物おくりものに対して感謝する。昨日の日の出は迎むかえたが、今日はもう、この世を去ってしまった人もいる。私は、嬉うれしさのあまり、思わず自分の胸を叩たたく。私にとって、今日という一日は、思いがけないボーナスであった。私は、実にラッキーな男ではないか。

なぜ、私は、私よりはるかに優すぐれた人びとが世を去った後も、もう一日、この世に止とどまっ
ていられるのだろうか？

他の人びとは、すでに目的を成し終えたのに、私は、まだ成し終えていないからなのか？

かつて、私が思い描いた私自身の理想の姿へ近づかせんとして、与えられた機会なのか？
あるいは、自然には、何か他の目的があるのか？
あるいは、今日は、私が一段と抜きんでる日なのか？

私は、今日が人生最後の日であると心得て生きる。

私は、たった一つの人生しかもっていない。人生とは時間で計られるものにすぎない。
一時いつときの無駄むだは、一生という人生の無駄むだである。そして、もし私が、今日という日を無駄むだにするならば、それは、私の人生の最後のページをむしり取ることになる。

そうなれば、失なつたその時は、もう取り戻すわけにはいかないのだから、私は、今日の一刻一刻を大切にしなければならぬ。

時間は、今日、銀行に預けておいて、明日、引きだすというわけにはいかない。風を捕つかまえておくことができないことと同様である。私は、今日の時間の一分一分を、両手の中で、包みこむようにして、慈いづくしむ。なぜなら、それは、金銭的価値を越えたものであるからだ。死にかけてた人物が、自分の全財産を投じて、もう一呼吸の息は買えまい。「金には変えられ

ないもの」それは、人生でもっとも貴重なるものである。

私は、今日が人生最後の日であると心得て生きる。

私は、時間を無駄むだにする者につきあうことは、怒りをもって拒絶する。時間の引きのばしは、ただちに行動をもつて排除はいじよする。疑いは誠実さのもとに葬ほうむり去る。恐れは、信念をもつて断ち切る。無駄むだ口ぐちには耳を貸さない。ぶらぶらしている者とは、つきあわない。怠なまけ者には、近づかない。

これより、私は、怠なまけ者につきあうことは、私の愛する者から、食べ物、着る物、暖かさを盗ぬすむ行為になるのだ、と考えることにする。

そして、本日ただ今こそは、私の愛と偉大いたいさを示す最後の機会なのである。

私は、今日が人生最後の日であると心得て生きる。

今日、成すべきことは、今日のうちにすます。今日、私は幼い私の子供らを慈いづくしむ。なぜなら、明日は、彼らは去り、私もいなくなるのだから。今日、私は愛する妻を抱きしめ、甘

いキスをする。なぜなら、明日は彼女は去り、私もいなくなるのだから。今日、私は困っている友に手を貸そう。なぜなら、明日は彼らは、助けを求めて叫べなくなるし、私も、彼らの叫びが聞こえなくなるのだから。今日、私は、人びとに与えるべく、力のかぎりに働く。なぜなら、明日は、私には与えるべき物は何もなく、受けとつてくれる彼らもいないのだから。

私は、今日が人生最後の日であると心得て生きる。

もし今日が人生最後の日であるならば、それは、私のもっとも偉大な記念碑となるであろう。私は、今日の一日を、わが人生最良の日としよう。私は、今日の時間を一分一分味わって飲みほし、感謝する。私は、時間を一分たりとも無駄にせず、価値あるものと引き換える。私は、以前にも増してよく働き、自分の筋肉が悲鳴をあげるまで働く。私は、前にも増してよく売り、利益をあげつづける。かくて、今日の一分は、昨日の一時間より実りあるものになる。

私は、今日が人生最後の日であると心得て生きる。
そして、幸いにも、今日が最後の日でなかったならば、私は、
跪ひざまずいて神に感謝を捧たもげる。